

コロナショック、株価の2番底はあるのか？

～語られざる投資の真実⑱～

「投資INSIDE-OUT」～語られざる投資の真実～では、マーケットでは知られているもののハッキリとは語られない、でも投資をする上で大切なことを考えていきます。

◆2番底がくるかどうか、市場の見方は分かっている

株価の大幅な調整局面では、最初の急落の後、一旦反発に転じ、「2度目」の下落局面(=「2番底」)があることが多いと言われています。投資格言には、「2番底は黙って買え！」といった勇ましいものもありますが、今般のコロナショックでは、どうでしょうか？

図1はダウ・ジョーンズ工業株価平均(NYダウ)が、リーマンショック直前に高値をつけた2008年8月29日と、過去最高値(29,551ドル)をつけた2020年2月12日のそれぞれの終値を100とした場合の推移です。今後の株価がリーマンショック時と同様の動きをすると仮定すれば、8月頃に16,500ドル程度の「2番底」をつけることとなります。

「2番底」に至る経路は、以下のように推察されます。

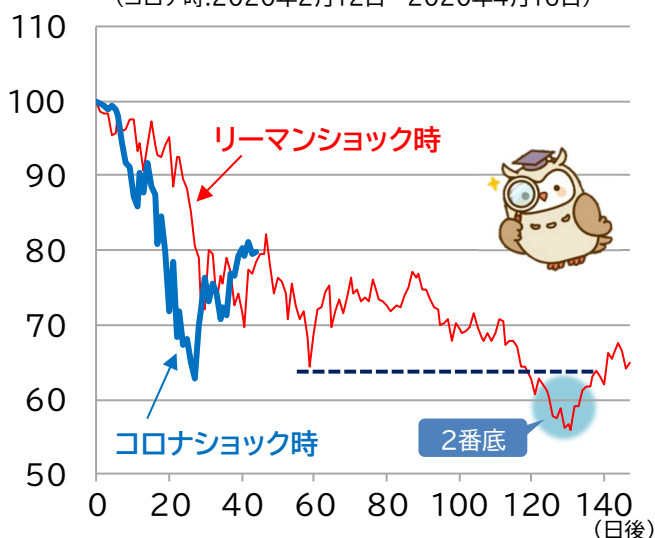
- ☞ 悪材料を受け、一斉に売りが出て最初の底をつける
- ☞ 利益確定の買い戻しや自律反発狙いの買いで上昇する
- ☞ 売り売りによる上値の限定、実体経済の悪化や業績の下方修正によりもみ合い推移が続く

☞ 再び弱気心理が強まり売りが加速、2番底を形成へ

今回、2番底があるとすれば、感染収束が長期化し、**企業倒産や雇用喪失が本格化するケース、中国で再び感染が拡大するケース、(原油暴落など)「新たな」ショックが発生するケース**、などが考えられます。一方、リーマンショック時の2番底は、各国の政策対応の遅さが一因との見方もあります。**足元で主要国の財政、金融政策が最大限に近いものが出そろっている点は、リーマンショック時との大きな違い**と言えそうです。

【図1】NYダウの推移

(リーマン時:2008年8月28日～2009年3月31日)
(コロナ時:2020年2月12日～2020年4月16日)



(出所)Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

2番底については過度な楽観、悲観とも禁物です。

過去を振り返ると、積み立て投資などの好機とも考えられそうです。(超乾)



【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。